

Press Release

CCAフェローシップ・プログラム展

CCAギャラリー

2017年3月18日(土) - 3月26日(日) 午前10時 - 午後5時

オープニング・レセプション 3月18日 土曜日 午後2時 - 6時

現代美術センターCCA北九州は、3月18日から26日までCCAフェローシップ・プログラム展を行います。

CCAフェローシップ・プログラムは、若手アーティストや美術関係者、建築家、デザイナーを対象としたプログラムです。参加するフェローは各々の専門分野において、よりプロフェッショナルな活動を展開させることが望まれます。

本年度のプログラムは2016年9月から始まり、2017年3月末に終了します。この間の数ヶ月、フェローたちは北九州に滞在しながら、センターで行われるワークショップやディスカッションに参加すると同時に、各々の研究を進展させていきます。CCAフェローシップ・プログラム展はその成果を発表するもので、今年度のプログラムを修了するマチュー・ブジュノスキー、ジェームズ・カドガン、フランチェスコ・デル・コンテ、栗原健太郎、キアラ・C・シラヴォの5名によるプロジェクトを発表します。

2016年度CCAフェロー:

マチュー・ブジュノスキー(1990年リヨン生)はフランスの建築家。2016年スイス連邦工科大学ローザンヌ校(EPFL)を卒業。卒業制作ではメディア・アートに焦点を当て活動する美術館H3Kにて電波遮断機能を持つパビリオン「404: Space not found」を設計。在学中はフィリップ・ラーム、ヘルツォーク&ド・ムーロンのオフィスにて建築設計に携わる。フランスの批評紙「QNDMC」を共同で創刊、編集長を務める(2011-2015)。建築やアート、音楽などの分野で活躍する専門家にアイデアを実現化する機会を与えるコンペティション「Forecast Platform」の2017年の候補者に選ばれ、スイスの建築家グループhutte.xyzと共にプロジェクトを考案する。

ジェームズ・カドガン(1987年生)はイギリスのフィルム・メーカー。ユニバーシティ・カレッジ・ファルマス及びロンドンのロイヤル・カレッジ・オブ・アートで学ぶ。

フランチェスコ・デル・コンテ(1988年ミラノ生)はイタリアのアーティスト。トリノのアルベルティーナ美術学校にてグラフィック・デザインと版画を学び、その後ブリュッセルのセント・ルーカス美術大学で2012年修士号を取得。卒業論文ではアナログ写真の現代における使用について研究、その後写真を中心に幅広く活動している。これまでにヴェニスのアルテ・ラゲーナ賞展、ブリュッセルの文化スペースWOLKE、トリノ国立山岳博物館、107財団(トリノ)などで作品を発表している。

栗原健太郎(1977埼玉県生)は日本の建築家。石上純也建築設計事務所勤務を経て、2006年に岩月美穂と共にstudio velocityを設立、住宅、商業施設、大学施設、公営団地等多数手掛ける。「あいちトリエンナーレ2013国際芸術祭」(2013)、「New World Architecture」展(2011)等に作品出展。主な受賞歴は2006年SDreview 2006入選。2011年JCD award金賞受賞。International Architecture Awards2011受賞。2013年AR HOUSE AWARD2013 Highly Commended受賞。2016年日本建築学会作品選集新人賞受賞。

キアラ・C・シラヴォ(1987年生)はイタリアのデザイン史家。ロンドン大学東洋アフリカ研究所で学び、ロイヤル・カレッジ・オブ・アート/ヴィクトリア&アルバート美術館にて修士号を取得(デザイン史専攻)。「地獄のデザイン」-地獄を形作ってきた概念やイメージについて研究し、それはアメリカの写真家、マーク・ラウエーデルの写真集「Pictures of Hell」の中で発表したエッセイでも展開されている。その他にも、アーキゾームの衣服についての маниフェスト「Dressing is Easy」(1973)や、中世における撮写の力についての考察を発表。CCAプログラム参加前は都市研究のオンライン雑誌「The Towner」の編集長を務め、デザインと建築のリサーチ・スタジオ、スペース・キャビアのメンバーとして活動していた。



現代美術センター CCA 北九州

〒808-0135 北九州市若松区ひびきの 2-5 学術研究都市

TEL 093-695-3691 Eメール mail@cca-kitakyushu.org www.cca-kitakyushu.org